

# オーシャン・オブ・ファイヤー

2004(平成16)年2月24日鑑賞(試写会・エルシアター)

★★★★



監督＝ジョー・ジョンストン／出演＝ヴィゴ・モーテンセン／オマー・シャリフ／ズレイカ・ロビンソン／ルイス・ロンバート（ブエナ・ビスタ・インターナショナル（ジャパン））  
配給／2004年アメリカ映画／137分

……アラビア砂漠を舞台とする3000マイルの過酷なホースレースにムスタングと呼ばれる野生の馬と伝説のカウボーイが参加。有力な血統を誇るアラビア馬と対抗し、数々の妨害工作を乗り越えて勝利していく姿はそれなりに感動的。ラストシーンもなかなかの工夫。

## オーシャン・オブ・ファイヤーとは？

「炎の海」（オーシャン・オブ・ファイヤー）と呼ばれるホースレースの舞台はアラビアの砂漠。

ペルシャ湾からイラクを抜け、シリア砂漠をダマスカスまでに至る全長3000マイルの過酷なサバイバルレースは、1000年の歴史をもつもので、参加できるのは高貴な血統を持つアラビア馬のみ。

ところがそこに、アメリカの伝説のカウボーイ、フランク・ホプキンス（ヴィゴ・モーテンセン）とムスタングと呼ばれる野生馬の「ヒダルゴ」が参加することに……。

## 主役は、『ロード・オブ・ザ・リング』のアラゴルン

この映画の主役フランクに扮するのは、あの『ロード・オブ・ザ・リング』3部作のアラゴルン役で一躍有名となったヴィゴ・モーテンセン。

はじめての主演だが、アラゴルンと同じような男臭い役で、それなりにいい味を出している。他方アラブの族長シーク・リヤドに扮するのは、あの名画『アラ

ビアのロレンス』(62年)で有名なオマー・シャリフ。

彼は1932年生まれだから、もう70歳を超えているが、これもいい味を。

族長の娘ジャジーラに扮するのはズレイカ・ロビンソンだが、この映画ではロマンスらしきものは全くなし。色気抜き、あくまでサバイバルレースを見せる男たちのドラマに徹している。

## 有力な対抗馬と妨害者

フランクとヒダルゴの有力な対抗馬の第1は、「アルハッター」という名で呼ばれる最高のアラビア馬に乗るアラビアの王子。

第2はイギリス女性でレディ・アン(ルイス・ロンバート)と呼ばれる貴婦人が所有する栗毛のアラビア馬に乗ったクルド人。

そして、フランクの優勝を妨害しようとする「悪役」は、シーク族長の従兄弟のカティープ。

最初は親切だったレディ・アンも、途中からは、目的のためには手段を選ばず、あくどい策略も……。

こんな中、1人異国の地で異教徒としてサバイバルレースにチャレンジするフランクはそりゃ大変。

## レースのルールは？

この人と馬による3000マイルの耐久サバイバルレースは、

- ①ルブアルハリと呼ばれる広大な「灼熱砂漠」
- ②ジニスと呼ばれる「砂の悪魔」
- ③ウムアルサミムと呼ばれる「流砂地獄」

などのスペクタクルシーンが1つの売りモノで、このレースの過酷さを強く印象づけている。したがって「中間地点」までたどり着いた時には、100頭のうち半数近くが脱落してしまうことに……。

しかし問題は、このサバイバルレースのルールが観客にはよくわからないこと。フランクとヒダルゴが、数々の苦難を乗り越えていく姿はそれなりに感動的だが、どうも、今はどういう地点にいるのか、どの方向に向かっているのか、食料や水

の補給はどのようにしているのか等々がわからないまま、サバイバルレースのオンパレードをずっと観ているのは少しつらい……？

## フランクの生い立ちは？

フランクは「伝説のカウボーイ」とのことだが、実は彼は、アメリカ人の騎兵隊の父と、スー族のインディアンの母との間に生まれたハーフ。その生い立ちが、映画の冒頭での第7騎兵隊によるインディアン大虐殺の中で悲しく描かれる。さらに、フランクと「ヒダルゴ」との愛情やフランクと族長の娘ジャジーラとの心の交流にも、この彼の生い立ちが大きく作用していることがわかる。そして、レースに勝利したフランクが獲得した巨額な賞金の用途は……？

## 感動的な2つのラストシーン

サバイバルレースに最後まで生き残り、ラスト地点を駆け抜けたのは、当然フランクとヒダルゴ。

自分の体力も尽き、さらには傷つき弱り果てたヒダルゴを「もはやこれまで」と自らの手で殺そうとまでしたフランクとヒダルゴが最後にラストスパートをかけて疾走する姿には多少違和感があるが、そこは映画のこと、多少大目みで素直に感動しよう。

しかしそれ以上に感動的なのは、フランクが巨額の賞金を使って、何百頭というムスタングの群れを野生馬として解放してやるラストシーン。そして、ここで、長年連れ添ってきた愛馬のヒダルゴも解放だ。

このラストシーンによって、ムスタングと呼ばれる野生の馬をフランクが本当に心から愛していることが最後に熱く伝わってくること請け合いだ。美しいSFXの画像もそれなりのものだが、このような人と馬との心の結びつきの方が、それ以上に心にグッとくるものだ。

2004(平成16)年2月24日記